

東京学芸大学附属世田谷中学校 3年

西崎 友佳子

今年七月、小惑星探査機「はやぶさ2」が小惑星リュウグウの地表と地下の岩石を採取することに成功したことが、大きなニュースとなった。二〇一〇年には、はやぶさ初号機が、プロジェクト中に発生した様々なアクシデントを乗り越えて地球に帰還し、映画化された物語を家族と観に行き、感動した思い出がある。

こうした宇宙探査プロジェクトを行っているJAXA（宇宙航空研究開発機構）には、運営費交付金などの国の資金、つまり税金が使われている。日本の宇宙開発予算は世界屈指の規模であり、国際宇宙ステーションの運営にも、アメリカに次ぐ資金を分担しているという。

税金が科学の研究開発に使われる意義とは何だろうか。小惑星のかけらを持ち帰ることは、私たちの生活に、直結して役に立つわけではない。しかし、はやぶさプロジェクトによって、私たちは、新しい発見に心躍らせ、私たちの生きる太陽系や惑星がどのようにできたのか、地球外生命体はいるのかなどと想像を広げることができる。人々に、未知の世界を知ろうとする好奇心や、未来への希望や大きな視野を与えているのではないだろうか。

現在では、民間企業によるロケット打ち上げも盛んになっていて、「宇宙ビジネス」や「商業衛星」という言葉も聞かれるが、ビジネスとして成り立つまでになったのは、国が多額の資金をかけて開発してきた技術や知識の積み上げが基礎にあったからだと思う。

科学には、すぐに役立たなくても、利益に結びつかなくても、長い目で見れば、人類の発展に繋がる分野が多くある。そうした分野は利益を出す必要がある民間での基礎研究は難しいので、広く人々が出し合った税金によって支えられる必要があるのだと思う。私も将来、自分が納めた税金が、そのように使われていれば、嬉しい気持ちになるだろう。

私には、将来、研究医になりたいという夢がある。大学などの機関で研究するときには、国から研究助成金を受けると思う。税金を使っているからには、人々の助けになる研究をしたい。人体の謎を解き明かし、病気の治療法、予防法を開発することができれば、月日はかかっても人々の役に立つと信じて頑張っていきたい。

一方で、私は研究内容を分かりやすく説明し、多くの人に知ってもらおう工夫にも取り組みたい。そうすることが、病気に苦しむ患者さんの希望になったり、子供たちが科学に興味を持つきっかけになればいいと思う。

また、それは、税金が有効に使われていることを広く国民に理解してもらうことにもなると思う。税金は、未来に向けた人類の探求を支え続けているのだ。